

## 為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台で上値重く推移か

[ 7月22日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		7月15日 ~ 7月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.90	108.38(16)	107.21(18)	107.65	-0.26
ユーロ・ドル	1.1269	1.1284(15)	1.1200(17)	1.1263	-0.0007

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,466.99	-218.91	日本10年債利回り	-0.135	-0.021
ダウ平均株価	27,222.97	-109.06	米10年債利回り	2.024	-0.098

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 22日 カナダ5月卸売売上高
- 23日 米5月住宅価格指数  
米6月中古住宅販売件数
- 24日 NZ6月貿易収支  
米MBA住宅ローン申請件数  
米6月新築住宅販売件数
- 25日 独7月ifo景況感指数  
欧州中央銀行(ECB)政策金利  
ドラギECB総裁記者会見  
米6月耐久財受注  
米新規失業保険申請件数
- 26日 米第2四半期国内総生産(GDP)速報値

【前回のレビュー】米国での利下げ期待からドル円は109円接近では上値を抑えられやすく、株高が円売りにつながりにくくなっている。一方で、107円を割り込むほどの弱さはない。こうした状況からドル円は107 ~ 108円台での推移が続くとした。

【FOMCでの利下げ水準の思惑で高下】

7月30 ~ 31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、0.25%の利下げが有力とみられているが、0.50%利下げとの見方も根強く残っている。米経済指標や株価動向などから、0.50%利下げがあるかどうかの思惑が強まったり、弱まったりしており、FOMCまではこうした思惑に振り回されやすい展開が続くとみられる。

このところの米経済指標では、11日の6月の米消費者物価指数、15日の7月のニューヨーク連銀製造業景気指数、16日の6月の米小売売上高は市場予想を上回った。ただ、6月の住宅着工件数と建築許可件数は予想から下振れするなど、米経済指標の結果は強弱まちまちで、利下げ幅への思惑が振り回される格好となっている。

18日にNY連銀のウィリアムズ総裁が「経済が極度の不安に陥った場合は、米連邦準備制度理事会(FRB)は積極的に行動すべき」と述べたことで、今月のFOMCで0.50%の利下げとの見方が強まった。ただ、その後、同連銀スポークスマンが「研究に基づく学術的なスピーチであり、今月末のFOMCでの行動の可能性についてのものではない」との声明を出すなど、行き過ぎた利下げ期待にくぎを刺すような動きを見せている。

19日の東京時間には、CME FEDウォッチでは、今月のFOMCでの0.25%の利下げ確率は56%前後、0.50%の利下げ確率は44%前後となっている。依然として、0.50%の利下げがあるとの見方も根強い。

16日にトランプ米大統領が「自分が望めばさらに中国製品に対して関税を課すことができる」と発言したことで、米中貿易摩擦の不透明感が再燃している。18日には米中両国の閣僚級による電話会議が行われた。内容に関しては明らかになっておらず、今後の交渉の日程などに関して協議されたもよう。米中貿易問題での進展がないようだと、トランプ米大統領が追加関税を持ち出して中国に圧力をかけ、結果として市場が混乱する可能性が高まりそうだ。

そうした中、米国株は堅調であり、最高値圏での推移を見せている。ただ、米国での利下げ観測を背景に株高が円売りにはつながりにくい。米中貿易協議の長期化懸念やFOMCでの利下げ観測はドル円の上値を抑える要因となる。ただ、ドル円は107円を割り込むような円高にはなりにくいとみられる。ドル円は上値が重いながらも107～108円台での推移が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、106.80～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に米5月住宅価格指数、米6月中古住宅販売件数、24日に米MBA住宅ローン申請件数、米6月新築住宅販売件数、25日に米6月耐久財受注、米新規失業保険申請件数、26日に米第2四半期国内総生産（GDP）速報値などがある。

#### 【ユーロドルはレンジ取引が継続か】

25日には欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。FOMCでの利下げが視野に入らる中で、ECBによる追加緩和にも期待感が広がり、ユーロドルの上値を抑える要因となっている。ユーロ圏の経済指標は景気減速への警戒感を募らせるものも多く、ECBによる追加緩和への期待感につながっている。

ただ、今回のECB理事会では利下げはないとみられる。フォワードガイダンス（将来の金融政策指針）を変更して、近い将来の利下げを示唆してきたり、ドラギ総裁が記者会見で金融緩和を示唆する発言が出てくるとみられている。将来の金融緩和姿勢が改めて打ち出されると、ユーロには圧迫要因となりそうだ。ただ、米国の利下げ観測でドルも弱いとみられ、ユーロドルは1.1200台を中心とするレンジ取引が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1190～1.1320ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、22日にカナダ5月卸売売上高、24日にNZ6月貿易収支、25日に独7月IFO景況感指数、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ドラギECB総裁記者会見などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。

